

現行計画(第2次生駒市環境基本計画)の進捗状況の評価・報告

分野	分類							概要	評価
共通 (環境教育、 啓発等)	プロジェクト	生駒環境市民講座(ECO-net講座)						環境市民講座(ECO-net 講座)を実施し、環境のことを知り、伝える人の増加につなげる	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度から毎年実施。 平成28年度までの講座への参加者数は約900人となり、環境行動や活動に興味や関心を持つ人の増加につなげた。
		環境フェスティバル						環境について楽しみながら学べる場を提供することで、環境に関心を持つ市民を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ECO-net 生駒と生駒市の共催で毎年、環境月間(6月)に開催。子供から大人まで多数の参加があり、イベントの参加をきっかけとして環境に関心を持つ人を増やすことができた。
	関連事業	環境・エネルギー学習プログラムの検討						環境活動に取り組んでいる団体を講師に招き、クイズやゲームなどの体験活動を取り入れた学習プログラム「エコキッズいこま」を実施する	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から市内小学校の主に4年生を対象に実施。平成27、28年度は市内の全小学校(12校)で実施し、児童の環境への意識の向上が図られた。
		エコスクールへの応募(グリーンフラッグの取得)						世界で取り組まれている学校向けの環境教育プログラム「エコスクール」の取得に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に生駒南第二小学校、平成27年度には生駒台小学校と鹿ノ台中学校の合計3校がグリーンフラッグを取得した。 取組が、地域を巻き込んだものでないと、グリーンフラッグの対象校とはならない。そのことから、環境に取り組む意識を地域へも波及することができた。
		竜田川クリーンキャンペーン						ごみの投棄や生活排水などによる水質汚濁が進んだ竜田川のクリーンキャンペーンを実施し、水質浄化・河川美化への意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> 平成8年度から毎年、奈良県や竜田川流域の関係地域の自治会等と協力・連携し、実施している。 平成28年度は、流域の13自治会、7団体、9事業者等の合計約1,000人によって計3.4kmの区間において実施し、回収したごみは(可燃3.01トン、不燃1.37トン)となった。
		環境シンポジウム						環境に関する市民の関心、意識向上を図る啓発の機会として、開催する	<ul style="list-style-type: none"> 学識者による基調講演と多様な主体によるパネルディスカッションの二部構成で、H19年度から毎年、エネルギーやごみ減量等、そのときの状況に即した内容をテーマとして開催している。 平成28年度は、「地域新電力」をテーマに開催し、約200人の市民の参加があった。
	指標と目標値 目標年度: 平成30年度	環境活動参加人数		H24	H25	H26	H27	H28	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向けて順調に推移している。 環境フェスティバル、竜田川クリーンキャンペーンなどが例年参加者が多いイベントとなっている。 平成27年度には、全国レベルの会議である、「環境自治体会議いこま会議」の開催があった為、伸び率が高くなっている。
		ECO-net生駒開催の講座や行事の参加者延べ人数: 117,000(人)		39,499	52,516	65,966	84,419	97,727	

分野	分類		概要	評価				
自然環境 (四季を感じられる生駒)	プロジェクト	取り戻そう！子どもが願う竜田川！	竜田川クリーンキャンペーン等、河川美化活動における市民啓発をおこなう	・H22年度から市と流域住民が毎年行う、河川美化活動・竜田川クリーンキャンペーンや、生活排水対策の学習をする「エコ料理教室」の開催を通じて、市民レベルでの啓発・環境改善につなげることができた。				
		生駒の自然を観察しよう！そして保護していこう！	水生生物、トンボ、ツバメ等、多様な生き物の観察学習会を開催し、自然に親しむ人の増加につなげる	・H22年度から開催している各種観察学習会には、親子連れを中心に、毎回20名前後の参加があり、特に子ども世代に対して、生駒の豊かな自然環境について伝え、考えてもらうことができた。				
	関連事業	市民農園の開設	貴重な緑地空間の保全活用を図り、住民が自然の中で気軽に土に親しみ農作物を作る楽しさを体験する場として市内3カ所に開設	・平成24年度から28年度までの、市民農園利用区画総数は、概算で1,163にのぼり、多くの市民が利用している。				
		市民の森事業	・市が一定期間樹林地の所有者から土地を無償で借り上げて整備を行い、広く市民に開放（環境教育活動、自然観察会及びイベントなどに利用）することにより、緑を大切にすることを育む。	・H27年5月、(愛称)「生駒台みんなの森」が俵口町(生駒台小学校南側)に誕生。 ・H29年12月末までの間に、延べ546名の市民が、自然観察等に利用したり、日常的な下草刈り及び清掃に参加。				
		下水道の整備	下水道普及率が低い流域関連公共下水道竜田川処理区を中心に、事業計画を立て、公共下水道管渠整備を実施	・市域における下水道普及率は、H21年度の57.3%からH28年度末現在で68.3%にまで向上した。				
		合併処理浄化槽設置整備事業	公共下水道の整備予定が当面ない区域を対象に、合併処理浄化槽の設置に対する補助金を交付し、浄化槽設置促進を図る	・H21年度からH28年度までに合計で478基の設置補助を実施した。				
		指標と目標値 目標年度： 平成30年度	竜田川の水質が、観測地点平均(年間平均)でBOD:5mg/l以下	H24	H25	H26	H27	H28
	阪奈道路下	12	10	11	5.9	6.5		
	東生駒川合流前	6.3	5	5.4	3.7	4.1		
	大宮橋下	7.8	5.6	5.6	4	4.8		
市境	3.6	3.2	3.8	3.1	3.9			

分野	分類						概要	評価
せいかつ環境 （「すてる」をすてた地球にやさしくらし）	プロジェクト	環境にやさしい売り方・買い方を推進する生駒					レジ袋有料化、マイバッグ持参の推奨等の活動を通じ、家庭ごみの大きなウエイトを占める容器包装ごみの削減につなげる	・マイバック持参、レジ袋不要が拡大するよう、市民アンケートなどの広報活動を展開した。多くの市民の賛同が得られたため、レジ袋有料化検討委員会を立ち上げ、H25年には、事業者と生駒市・ECO-net生駒で「レジ袋有料化に関する協定」を締結し、レジ袋無料配布の中止（有料化）を実現した。
		減らそう！家庭のCO2を					電気、ガスなどのエネルギー消費など、自分の家庭生活が環境にどのような影響を及ぼしているのかの収支記録である「環境家計簿」を家庭へ普及させることを通じ、エネルギーの効率利用に関する意識を高めてもらう	・「生駒市民 わが家の環境家計簿」を作成するとともに、市民向け「応募ハガキ」を用い、インセンティブを付与するなどして普及・定着を図った。 ・H24年度～H28年度間の登録世帯数は、約1,000世帯にのぼる。
		資源循環と学びのプロジェクト					市内の環境関連施設などを活用した環境学習を実施し、資源循環のモデルをつくと共に、環境にやさしい活動ができる人の増加につなげる	・市内のごみ処理施設の見学を実施する「生駒市ごみ処理・資源化施設見学会」への参加者は、H28年度末で370人を超える。
	関連事業	家庭系ごみ有料化					平成23年度から32年度までの10年間でごみの焼却量を半減するという目標を設定し、平成23年5月に、策定した生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画「ごみ半減プラン」において、重点施策の一つになっている「家庭系ごみへの有料化の導入」の実現に向けた取組	・平成23年度 「生駒市ごみ有料化等検討委員会」での検討 ・平成24年4月～25年9月 「生駒市ごみ半減会議」を設置し、「ごみ半減トライアル計画」を実施 ・平成25年10月～ ごみ半減トライアル計画の検証 ・平成26年3月 生駒市議会定例会で条例改正案可決 ・平成27年4月から有料化を開始
		環境フリーマーケット					広報紙等で出店者を募集し、家庭内の不用品を譲り合う環境フリーマーケットを開催することで、資源の有効利用促進、物を大切にする意識向上を図る。	・平成28年度4回開催。出店数110件。
		生ごみの減量					家庭からごみとして排出される生ごみの焼却量を削減するため、家庭用生ごみ処理容器・処理機を購入する者に対し補助金を交付	・H24年度からH28年度までで、1,910件の補助を実施している。
		給水スポットの整備					市内の店舗利用者が、マイボトルに無料で水道水を入れてもらえるスポット（給水スポット）を整備することで、マイボトル持参を促進し、飲料用容器包装の削減につなげる	・H29年3月時点で市内24店舗が協力店として登録し、マイボトル促進につなげている。
		指標と目標値 目標年度： 平成30年度						
	ごみ排出量		H24	H25	H26	H27	H28	
	1人1日あたり家庭系ごみ排出量：570(g/人日)		612.0	610.9	669.1	552.3	544.6	
再資源化率：30(%)		19.6	19.9	18.7	23.4	23.5		
事業系ごみ排出量：6,721(t)		9,084	8,352	8,664	8,942	9,167		

分野	分類							概要	評価
まち・みち環境 (歩きたくなる楽しいまち・みち)	プロジェクト	歩いて楽しい！環境まち・みちづくりプロジェクト						まち歩きイベント「よこみち歩きのすすめ」の実施や、花や緑を育て守る活動団体と連携・協力することで、市内のまち歩きを楽しむ人の増加につなげる	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度から年1回、「よこみち歩きのすすめ」を開催。高齢者層を中心に、毎回20名前後の参加。歩いてもらい、生駒のよさや歴史・文化や市の施設のことを知ってもらえた。 平成23年度から、ゴーヤの苗を市民・教育機関・公共施設に配布し、みどりのカーテンコンテストを開催。省エネにつながるだけでなく、景観の向上にも寄与したことに加え、子どもたちの環境教育や食育にも役立った。
		生駒市内で目的地へ楽しく楽に移動する						生駒市地域公共交通活性化協議会への参加、自転車マップの作成等を通じて、人と環境にやさしい移動方法を啓発していく	<ul style="list-style-type: none"> ルート周辺のおすすめスポットやルート説明等の情報収集、編集等を行い、自転車マップが平成28年度に完成。
	関連事業	生垣助成制度						市街化区域内で、「新たに設置される生垣」、「作り替えが必要な生垣」について、生垣を設置するものに対して設置費用の一部を助成することで、緑を創出し、緑あふれる住環境の形成を図る	<ul style="list-style-type: none"> 生垣助成制度について、生駒市みどりの基金を原資に助成を行っている。(H19年度から28年度で、実績：89件、総延長930.8m)
		コミュニティバスの整備拡充						地域の買い物や通院など日常生活に必要な活動の機会を確保するため、また、二酸化炭素排出量削減など環境負荷への軽減といった課題の解決を図るため、公共交通サービスを提供する	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度から運行を開始している光陽台線に加え、本町地区(門前線)、南地区(西畑線・有里線)について、平成25年度から本格運行。北新町地区(北新町線)、萩の台地区(萩の台線)について、平成26年度から実証運行を開始し、現在は6路線での運行となっている。 平成28年度における、それぞれの路線の乗客数は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ◆光陽台線：43,771人 ◆門前線35,274人 ◆西畑線・有里線：7,175人 ◆北新町線：7,098人 ◆萩の台線：6,642人
		超小型モビリティの導入						狭い道や坂道が多い市内において、車体がコンパクトで小回りがきく超小型モビリティを公用車として導入することで、市域での新たな交通手段の検討につなげる	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度に公用車として2台の超小型モビリティを導入。 保健師等の乳幼児全戸訪問事業等に使用。 利用実績は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ◆平成27年度：127件 ◆平成28年度：106件
		市民の健康増進						健康づくり及び環境の向上を目指して、「歩く」ことを推奨する事業として、ウォーキングマップを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年に全36コースのマップを作成 平成29年11月には、マップの見直しを実施。生駒市健康づくり推進員連絡協議会、生駒市観光ボランティアガイドに、「家族でも安全に運動できる道」「生駒の見どころを楽しめる道」という観点からコースの選定に協力をいただき、24コースのマップを作成し、市民に配布した。
	指標と目標値 目標年度： 平成30年度	公共交通	H24	H25	H26	H27	H28		<ul style="list-style-type: none"> 鉄道利用者に関しては、環境基本計画見直し時において既に、基準年度に対して減少していた。定年退職による通勤利用者の減少等が影響している。 代替交通については、実証運行を含めると6路線にまで拡充されている。
		鉄道利用者数：19,306(千人)	18,548	18,880	19,013	18,893	18,826		
		路線バス利用者数：5,586(千人)	5,172	5,178	5,161	5,201	5,141		
		代替交通の新規路線(本)	4	4	6	6	6		

分野	分類				概要	評価	
エネルギー環境 (省エネと自然エネルギーで快適に暮らせるまち)	プロジェクト	雨水利用ひろめ隊			雨水タンクの設置補助等を実施し、雨水を効率的に使用する人の増加につなげる	・平成22年度から雨水タンクの設置補助を実施し、雨水を利用し、暮らしに活かすまちづくりを推進する人が増加した。(H22年度から28年度で、補助件数:414件、補助対象総設備容量72,095L)	
		太陽光発電応援団			再生可能エネルギー普及の講演会等を実施し、地球温暖化防止の市民啓発を行う	・「環境フェスティバル」等のイベントにおいて、太陽光発電相談室、ソーラークッカーの展示・料理の実演試食会等を実施。また、毎年、講演会を実施し、市民の太陽光利用の普及促進を図った。	
		エネルギー情報基地			エネルギー相談所を開設し、市民にアドバイスを実施することによって、エネルギーを効率よく利用する人の増加につなげる	・環境フェスティバル等のイベントにて臨時のエネルギー相談所を設け太陽光発電設置予定・設置済みの方の相談をうける。 ・一般公募にて太陽光アドバイザーを募り育成(6名)。市民による市民への啓発促進体制を整備した。	
	関連事業	スマートコミュニティの推進			再生可能エネルギーの導入等環境に配慮した住宅及び地域の整備を行う一定規模以上の計画として市に認定された計画地内の住宅購入者に対し、「スマートコミュニティ推進奨励金」を交付することで、市域の低炭素化を図る。	・平成25・26年度で、「白庭みなみ丘」地内の住宅全43戸に対してスマートコミュニティ推進奨励金の交付を実施。	
		住宅省エネルギー改修工事補助事業			住宅の窓や、床・天井・壁の断熱性を高める改修工事の費用を補助し、環境負荷が少ない住環境の創出を図る	・平成25年度から28年度までで、補助件数は、124にのぼり、多くの市民が利用している	
		公共施設への太陽光発電システムの導入促進			市の施設への太陽光発電システムを設置することで、温室効果ガスを排出しないクリーンエネルギーの導入促進を図る	・教育施設や生涯学習施設を中心に設置(28年度末までで、18施設、合計発電量586,593kWh)	
		上水道施設での小水力発電			山崎浄水場小水力発電施設(出力規模:40kW)を、導入し、CO2削減に貢献する	・平成23年度に小水力発電施設の導入を決定。奈良県平群調整池からの高い受水圧で発電機を回して発電。 ・平成24年度には水道事業として全国で初めて再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)を利用し、発電した電力の全量をいこま市民パワー株式会社に販売。 ・平成28年度の年間発電量は、361,168 kWhとなった。	
	指標と目標値 目標年度: 平成30年度	二酸化炭素排出量	H25	H26	H27		・目標達成に向けて順調に推移しているが、さらなる削減のため、排出量の多い家庭部門を中心に啓発を強化する必要がある。
		二酸化炭素排出量:28.0(万t-CO2)	32.7	30.1	29.1		